

平成 22 年度 図書館情報学海外研修助成報告書 博士前期課程 1 年 廣瀬怜那

「海外における先進的な図書館電子書籍サービスの視察」

研修期間：平成 22 年 11 月 26 日～平成 22 年 12 月 1 日

目的地：（アメリカ合衆国 カリフォルニア州）

主要訪問先 スタンフォード大学

本研修は、海外における先進的な図書館電子書籍サービスを視察することを目的とした。

電子書籍は米国を中心として世界的に普及の兆しを見せている。さらに Amazon 社の Kindle(2007 年)や Apple 社の iPad(2010 年)などの電子書籍端末の発売により、今後もさらに電子書籍の利用拡大が見込まれている。これらの動向は世界の図書館においてもみることができる。また、電子書籍だけでなく電子ジャーナルなどの普及も一層進むことが予想されることから、電子資料をサービスの中核として位置づけた図書館を作る動きがみられる。それらは従来の図書館に比べ、書籍の数が少ないため、Bookless Library と呼ばれている。

今回、世界で初の Bookless Library であるスタンフォード大学図書館工学部図書館 TERMAN ENGINEERING LIBRARY(以下工学部図書館)を視察した(図 1, 図 2)。



図 1 工学部図書館の概観



図 2 工学部図書館の内部(2 階)

工学部図書館は 2009 年まで独立した建物であったが、工学部地区の改修工事に伴い、工学部建物内に併設された。1 階はカフェ(図 3)、2 階は図書館(図 2、図 4)、3 階はグループワークスペース(図 5)となっている。教員や学生が図書館にアクセスしやすいよう、地下の通路で工学部エリア内のほぼすべての建物に直結している。

工学部図書館では、学生の学習環境の整備と専門性の高い研究支援を図書館サービスの主軸としている。椅子や机は組み替え可能であり、大型ディスプレイも設置している

ため、全ての階で個人学習からグループ学習まで幅広く対応可能である。また、利用者の研究支援を行う4分野のサブジェクトライブラリアンが図書館内に1人1ブースをもち、利用者スペースからは全てのライブラリアンの顔を見ることが出来るため、いつでも質問可能な状態である。



図3 1階カフェテリア 遠隔のMITの学生と議論ができる大型ディスプレイ

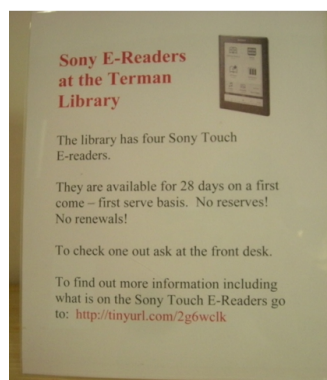


図4 2階図書館 電子書籍リーダーの貸出しを示す掲示



図5 3階グループワークスペース

今回、工学部図書館ヘッドライブラリアン Helen B. Josephine 氏にインタビューを行うことができた。今後、研究支援を主軸とした図書館サービスが増え、さらに電子的資料の重要性が増していることから、スタンフォード大学工学部図書館のような Bookless Library が増えて行くと考えていると述べていた。また、私と同様に、オーストラリアから BookLess Library の視察に来ていたクイーンズ技術大学図書館の Hilary Hughes 氏と意見を交換することができた。

今回の研修旅行では、図書館側が利用者の居住性を高めるために様々な工夫や努力をしていること、BookLess Library が世界的な注目を集めていることを感じる事ができた。

謝辞

このような貴重な機会を与えてくださった、茗溪会支部の橘会の皆様には厚く御礼申し上げます。また、本研修を紹介して下さっただけでなく、現地で手厚いエスコートをして下さった図書館情報メディア研究科の長谷川秀彦先生ご夫妻、研修にあたり様々な指導を行って下さったピッツバーグ大学のグッド長橋先生には心より感謝申し上げます。